

## 2016 年度春季海外研修（スペインコース）研修レポート

### 社会福祉学部 Sさん

私は2月13日から3月13日までの約3週間、2017年春季スペイン語学研修に参加しました。研修先はスペイン・アルカラのアルカラ大学アルカリングアです。アルカラはマドリード州東部にあり、とても歴史のある街です。

#### ☆生活について

3週間ホームステイでした。私のホームステイ先は大学まで徒歩7~8分ほどのところにあるマンションで、70歳くらいの母親、28歳の息子が暮らしていました。その他にアメリカ人の学生2人と日本人の学生1人がホームステイしていました。また自分と同じ研修に参加していた学生とも一緒に生活しました。私は一人部屋で、勉強できる机と物を置いて使える机、ベッドとクローゼットは自由に使うことができました。トイレとお風呂は一緒になっていて、自分はアメリカ人の学生と同じところを使っていました。（トイレとお風呂は3つあり、誰がどこを使うか基本的に決まっているようでした）シャワーのみであり長い時間使うことはありませんでした。食事は母親が用意してくれて、朝はほぼ決まったもので、昼・夜はご飯とスープとおかず（たまごや鶏肉など）、サラダ（味付けは塩とオリーブオイル）などいろいろなものがありました。水道水も普通に飲めました。また、お手伝いさんがいて掃除や洗濯などをしてくれていました。

#### ☆授業について

最初に行われるテスト（選択問題と会話）で2つのクラスに分けられ、テストが終わるとその日から授業が始まりました。1限は文法中心で9時から11時、30分休憩を挟んでから2限は会話中心で11時30分から13時までの2コマで終わります。授業中にも先生の指示で休憩があるので授業が長いと感じることはありませんでした。どちらの授業もペアで取り組んだり、会話をしたりすることが多いので楽しく授業に参加できました。最初はついていけるか不安でしたが、イラストや画像を見せてくれたり、ジェスチャーを使ってくれたりしたので理解することができました。教科書を読んだり、発言したりする機会が比較的多かったので積極的に参加することが大切だと思いました。

#### ☆観光について

授業後や休日にはほぼ毎日アクティビティがあり、アルカラやマドリードなどさまざまな土地をスタッフの方や現地のガイドの方と観光することができました。アルカラは比較的安全なのでスリなども少ないようですが、マドリードなどの大きな街になるとスリが多く荷物の持ち方などに注意しなければなりません。観光では大聖堂や教会などを日

本ではほとんど見ることのない文化に触れることができました。街の中を散策するだけでもさまざまな発見があり、伝統的な文化などもすごく身近なものに感じられました。

#### ☆まとめ

私はスペイン語の授業の中でこのプログラムを知り、学生のうちに一度は海外に行きたいと考えていたため、研修に参加しました。今回の研修を通して、語学はもちろんのこと、スペインの習慣や文化を自分の身体で感じることができ、自分が想像していた以上の素晴らしい経験ができました。はじめは多少不安もありましたが、ホストファミリーだけでなく、多くの方が優しく親切で、楽しい3週間を過ごせました。また、この研修と一緒に参加した普段会うことのない他県の学生と交流できるのもいいと思います。3週間はあっという間だったので、ぜひまたスペインを訪れたいと思います。



↑セゴビアの街並みとセゴビア城（白雪姫のお城のモデルになった城）



↑バルで食べたパエリアと世界一美味しい(らしい)マッシュルーム

## ソフトウェア情報学部 Mさん

私は2017年2月19日から3月13日までの3週間スペイン語学研修に参加してきました。海外に行くのは初めての経験だったため、行くと決めた瞬間から春休みのスペインへの渡航が大学生活の目標であり、大学の勉強を頑張るモチベーションとなっていました。それくらい想像しえない海外への渡航はほんの少しの不安と楽しみでいっぱいでした。いざ出発日が近づくと荷物の準備すら何をもっていけばいいのかわかりませんでした。何とかなるだろうと思いパスポートだけはしっかり確認して出発しました。

私は日本が世界で一番治安が良く、住みやすい国であると勝手に思っていました。しかし、スペインでの3週間はストレスがなく本当に居心地がいい滞在でした。私自身の性格が真面目な印象がある日本人よりも細かいことには気にしすぎないスペイン人に合っていたのかもしれませんが、人間関係などはスペインのほうが楽なのかなと思いました。家族との時間を大切にしている、1に家族、2に友達、3に仕事のスペインでは時間がゆったり流れていたような気がしました。

しかし、適当すぎる場面（信号はあつてない様なもの\*車が止まってくれます、時間が迫っているのに友人と話始める、期日を指定しても意味がない）や生活の違い（洗濯は1週間に1回、お風呂はなく、シャワーは10分で水に変わり間隔を20分ほど開けないとお湯がでない）もあつたりするので合う合わないは人によるのかなとは思いました。一番驚いて印象的だったのは、鉄道の電光掲示板でした。待ち時間の表示がされるものなのですが、16分だったはずの表示が1分経つと3分といった表示になっていたり、とにかく信用できず、誰も気にしていない掲示板でした。日本のように1分単位できっちりしている文化とは大分違いを感じました。

### ●授業

授業が始まる1日目。クラス分けを行うテストを行い2クラスに分けられました。内容は文法の選択問題と先生との会話テストでした。大学でスペイン語をやったからと言って文法を知っているわけでもなく、スペイン人と話したこともないので唯一テストでできたことは「私の名前は〇〇です」ということだけでした。他の会話は何を話しているのかさっぱりわからず先生には怪訝な顔をされ、筆記テストの時間は問題を解いている演技をするのに必死でしたが、テストの結果なんてスペインでは何も気にすることはありませんでした。もちろん他の大学の人の中には理解して話せる人もいましたが、私は遊びに行っている感覚のほうが強かったので楽しくスペイン語に触れるには下のクラスのほうが良かったと思いました。何より全くできなかったからこそ少しでも話すことができ、会話が通じると馬鹿の一つ覚えのようにその言葉をいろんなお店で使うことが出来ました。

クラスに分かれ授業を受けると何より先生のやさしさが身に沁みました。スペイン語しか使っていないのに数日たつと何をすればいいのかわかってくるのが不思議でした。授業では自己紹介から始まり、数字、時間、色、顔の特徴など文法を習うというより日常生

活ですぐに使えるような内容ばかりでした。内容的には小学生がやるようなことだったかもしれないですが、スペイン語に触れ、楽しいと実感でき、勉強へのモチベーションが上がる授業でとても満足しました。ゲームやプレゼンを通じて楽しい空間を作っていただいて教えてくださった担当の先生には感謝するばかりでした。最後の日には先生たちとバルにでかけ一緒にお酒やタパスを食べながら話すことができたのも最高の思い出になりました。

#### スペインのビンゴ



大学の校舎・旗

#### ●アクティビティ（参加は自由）

ガイドブックに載っているひまわりと闘牛以外はすべて観光したのではないと思うほど毎日どこかに遊びに行き、充実した毎日を送っていました。貸し切りのバスや鉄道、徒歩でスペインを満喫しました。スペインというとサグラダファミリアくらいしか出てきませんが、3週間で日本の文化よりも生で文化に触れたものは多いのではないかと思います。どこか遠出するときは現地のガイド

さんも一緒にいって街の歴史や背景などの解説を聞きながら観光することが出来ました。日本と異なるなと感じたところは教会がどこにいてもあること、美術館に行列ができていること（無料で入れる時間帯がある）、何より空がいつも青く気持ち良かったところでした。今回は完全にプログラムに頼ってついていっただけだったので、目的地までハプニングに合うこともなく、楽しむことができたのが団体で行く魅力であると感じました。また、スペインに行って一番自分の中で変わったことは“絵”に対する考え方でした。ピカソ美術館、プラド美術館、ソフィア美術館と名だたる美術館に行くことができて、時代や感情を絵から感じられるものの多さに感動しました。（美術館に空港と似たセキュリティチェックがあったことに美術作品の価値の高さを感じました）日本では休みの日に美術館に行くといった人をあまり聞いたことがありませんでしたが、スペインでは表現することの魅力を感じることができました。

水道橋

チュロス・ソフィア美術館

フラメンコ



料理教室で作った料理

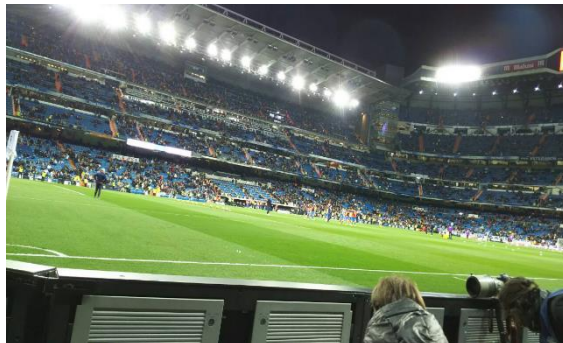
サグラダ・ファミリア

王宮

## ●特にうれしかったこと

### (1) スペインのサッカーを前列目で見ることができたこと

アクティビティの中にサッカーを観に行く日がありました。私はせっかくスペインにいけるのだからお金のことは置いてすべてのアクティビティに参加しようと思いルールも選手もろくに知りもしないでサッカー観戦に申し込みをしました。スペインといえばサッカーがすごいのだろうとなんとなく参加したのに、なんと観られる席が一番前の列で選手が肉眼で観られるというのです。これに



はいくら興味が無いといってもテンションが上がり、初めてのサッカー観戦がスペインでの一番前の席だという贅沢な経験をすることが出来ました。試合は「レアル・マドリード vs ラス・パルマス」の戦いで結果は3対3と引き分けで終わってしまったのですが、ロナウドが後半ぎりぎりPK含め2回連続でゴールを決めるなど負けるかもしれないと思っていた矢先に応援していたチームが同点に追いつくなど白熱した興奮する試合を観ることが出来ました。サッカーファンにはたまらない試合を観ることができたのも幸せでした。

### (2) スタバでタンブラーを買ったら好きな飲み物を無料でくれたこと



1週目の土日はバルセロナへ観光しに行きました。サグラダファミリアを観て感動した帰りに自由時間があつたのでスタバに行ってタンブラーを記念に買おうと思ってお店に行きました。まだ1週目で買い物も自動販売機でしか経験しておらず、言葉も”hola!”(やあ)しか言うことが出来ず緊張しながらタンブラーをレジに置き、クレジットカードを見せました。すると店員さんが会計するそぶりをみせず、すごく話しかけてきたので私は何を言っているかもわからず心はハプニングでしたが、ドリンクをサービスするから飲みたいものを選んで。といってくれていました。スリが多いといった注意を聞きすぎてバルセロナは危険だとばかり思いこんでしまっていたのですが、このスタバのおかげで1週目にしてスペイン人のことが大好きになりました。日本では体験したことがなかったのでものすごくうれしかったです。

(3) 日本語を話しかけてくださる方が多く、日本人に優しいこと

スペインにはバルが多く、スペイン人は時間関係なくお酒を飲みながら家族や友人との時間を楽しんでいました。もちろん私もバルや外



食しにお店にたくさん行きましたが、たくさんサービスしていただき、優しくしてくれる場面が多かったです。海外に対して差別など全く偏見がなかったわけではありませんが、少なくともスペインでは日本人だからとっていやな思いをすることが全くありませんでした。お店に行くと、席に座る時には椅子を引いてくれ、外国人だとわかると”?De donde eres?”どこ出身ですか?と気さくに話しかけてくれ” Soy de japon.”と答え、日本人だとわかると自分が知っている日本語を話してくれる方が多かったです。“こんにちは”“ありがとう”“東京??”など海外の方が日本語を知っているということがこんなにもうれしいのかと自分でも驚きました。パエリアのお店に行ったときは、どれを食べようか悩んで時間がかかっているとお店の人が席までやってきてパエリアの種類について説明しにきてくれたりもしました。

結果的には、もうずっとスペインに住んでいたい!と思うような滞在でした。スペインが私にとっていい国と感じたのはその通りかもしれませんが、その背景にはアルカラ大学をはじめとし、一緒に滞在して下さったコーディネーターの方々、大学の事務の方、先生、家族など関わって下さった全ての方の支援があったからこそ素敵な3週間を過ごせたのではないかなと思っています。本当に皆様ありがとうございました。